



Title	目で見るWHO 第93号 巻末資料等
Author(s)	小笠原, 理恵
Citation	目で見るWHO. 2025, 93, p. 36-38
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102841
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

(公社)日本WHO協会の沿革

★は世界保健機関（WHO）の沿革

- 1948★ 国連の専門機関として世界保健機関（WHO）が設立し、「WHO 憲章」が発効した。
- 1965 WHO 憲章の精神普及を目的とする社団法人日本 WHO 協会の設立が認可された（本部京都）。WHO 講演会等の事業活動を開始。
- 1966 「世界保健デー記念大会」開催事業を開始。
- 1968 機関誌『目で見える WHO』創刊号発行。
- 1970 小中学生を対象に保健衛生に関する作文コンクール事業を開始。
- 1981 老年問題に関する神戸国際シンポジウムを実施。
- 1985 WHO 健康相談室を開設、中高年向け健康体操教室を実施。
- 1994 海外の WHO 関連研究者への研究費助成事業を実施。
- 1996★ WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター）開設。
- 1998 WHO 創設 50 周年シンポジウム「健やかで豊かな長寿社会を目指して」を実施。
- 2000 全国各地に支部が設立され、健康フォーラム事業などを展開。
- 2004 業務運営と WHO のロゴ使用に関して、厚生労働省より改善勧告を受ける。
- 2005 倫理委員会を設置し、すべての支部を閉鎖。
- 2007 事務局を京都より大阪市に移転。翌年 2008 年に事務局を現在の大阪商工会議所内に移転。
- 2009 『目で見える WHO』を復刊し、健康に関するセミナーを実施。
- 2010 關淳一氏（元大阪市長）が理事長に就任し、組織体制を一新。
WHO 神戸センターのクマレサン所長を招き、フォーラム「WHO と日本」を実施。
- 2011 メールマガジンの配信を開始。WHO インターンシップ支援助成を開始。
- 2012 公益社団法人格を取得。WHO 神戸センターのロス所長を招き、禁煙セミナーを実施。
- 2013 第 5 回アフリカ開発会議（TICAD）公式サイドイベントとしてフォーラムを実施。
- 2014 WHO 本部から発信されるファクトシートの翻訳出版権を付与される。
- 2019 ワンワールド・フェスティバル（大阪市）に参加。「関西グローバルヘルスの集い」セミナー開始。
英語名称を、Friends of WHO Japan に変更。
- 2020 ラオス小児外科プロジェクト開始。医療従事者応援はがきプロジェクト開始
- 2022 「世界保健デー」国内イベントを復活。

第二次世界大戦後の硝煙さめやらぬ 1946 年 7 月に世界の 61 カ国がニューヨークに集い、健康と平和への願いを込めた憲章に調印し、1948 年 4 月 7 日に WHO 憲章が発効され、国連の専門機関として世界保健機関 WHO が発足しました。

当協会はこの WHO 憲章の精神に賛同した人々により、1965 年に民間の WHO 支援組織として設立され、グローバルな視野から人類の健康とウェルビーイングを考え、WHO 憲章の普及と人々の健康増進につながる活動を展開してきました。

歴代会長・理事長、副会長・副理事長(在職期間)

会長 理事長	中野種一郎(1965-73)	副会長 副理事長	松下幸之助(1965-68)	羽田春免(1984-91)	中野 進(1998-06)
	平沢 興(1974-75)		野辺地慶三(1965-68)	佐野晴洋(1989-95)	高月 清(2002-06)
	奥田 東(1976-88)		尾村偉久(1965-68)	河野貞男(1989-95)	北村李賢(2002-04)
	澤田敏夫(1989-92)		木村 廉(1965-73)	村瀬敏郎(1992-95)	植松治雄(2004-06)
	西島安則(1993-06)		黒川武雄(1965-73)	加治有恒(1996-98)	下村 誠(2006-08)
	忌部 実(2006-07)		武見太郎(1965-81)	坪井栄孝(1996-03)	市橋 誠(2007)
	宇佐美 登(2007-09)		千 宗室(1965-02)	堀田 進(1996-04)	更家悠介(2008-12)
	關 淳一(2010-17)		清水三郎(1974-95)	奥村百代(1996-06)	更家悠介(2018-)
	中村 安秀(2018-)		花岡堅而(1982-83)	末舛恵一(1996-04)	生駒京子(2018-2023)

寄付者のご芳名

当協会にご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。

(匿名希望を除く。50音順、2025年5月末現在)

この紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

岡本 恒男 様

一般社団法人生産技術振興協会

編集委員のページ



小笠原 理恵

大阪大学大学院医学系研究科 国際未来医療学講座 特任講師
大阪大学医学部附属病院 国際医療センター 副センター長

ルールよりも先にマナー ～5月の「折々のことば」から～

朝日新聞朝刊1面の「折々のことば」は、哲学者鷲田清一が執筆するコラムです。2025年5月16日付の「折々のことば」が、ずっと私の心に響いています。

ルールについて、日本人は大きな間違いをしていると思いますね。本来、ルールよりも先にマナーがあるものなんです。(藤本義一)

戦争では掟(ルール)に従わない者が迫害され、負けた途端にそのルールも人格も一変してきたのを目の当たりにした経験から、「何かといえばルールというのに不信感がある」という、小説家・放送作家であった藤本義一のことばです。これに対して鷲田は、「議論においても、相手の発言に耳を傾ける…対話の土俵を死守するという態度が先にあるはず」と説いています。

その前日の5月15日付けのコラムには、在日コリアンのミュージシャン趙博のことばが紹介されていました。「非人権的」な社会の体制では逃げ場がないこと、そして、『人権問題』は、差別をなくそうという申し合わせではなく、『国の成り立ちや原則が、人権に沿っているか』の問題』だと綴られていました。

いかなるルールもUniversal(絶対)ではないこと、常に他者との対話を重ね見直す姿勢を持ち続けなければならないこと、そして日本は今も昔もそれが不得手なこと(自戒の念を込めて)。朝からそんなことを考えさせられた5月でした。

グローバルな視野から健康を考え、
国の内外で人々の健康増進につながる諸活動と
WHO 憲章精神の普及活動を展開しています。
私たちの活動に賛同し、
継続のご支援頂ける方の入会をお待ちしています。

会員種別	年会費
正会員：個人	50,000円
正会員：法人	100,000円
個人賛助会員	1口：5,000円
学生賛助会員	1口：2,000円
法人賛助会員	1口：10,000円



入会のお申し込みはこちらから

目で見える WHO



Visual Journal of Friends of WHO Japan

2025 夏号 No.93
2025年7月1日 発行
定価 1,100円

発行者
中村安秀

編集委員
安田直史（編集長） 山田絵里（副編集長）
磯邊綾菜 伊東真由美 井上悠生 小笠原理恵 木下英樹 佐伯 壮一朗
柴原史歩 清水ちとせ 白野倫徳 成 仁脩 戸田登美子 林正幸
福井沙織 藤井まい 松澤文音 森本早紀 渡部雄一

編集協力：森井真理子
デザイン協力：根本睦子

発行所
公益社団法人 日本WHO協会
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8 大阪商工会議所ビル5F
TEL ☎ 06-6944-1110 FAX ☎ 06-6944-1136
URL ☎ <https://www.japan-who.or.jp/>



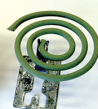
化学遺産に認定されました

日本化学会 認定化学遺産 第041号『日本における殺虫剤産業の発祥を示す資料』



金鳥。渦巻

世界初の
渦巻き型蚊取り線香



キンチョール

日本で初めての
エアゾール殺虫剤



日本の殺虫剤産業は、弊社創業者の上山英一郎と除虫菊との出会いから始まり、有用な化学製品である世界初の蚊取り線香やエアゾール殺虫剤の製品化、ならびに除虫菊に含まれる有効成分・ピレトリン類に関わる化学的研究を礎として現在に至っております。



医薬で紡ぐ、
日本型セルフケア

医薬のチカラで、笑顔を。

 **中外医薬生産**

〒518-0131 三重県伊賀市ゆめが丘7丁目5番地の5
TEL 0595-21-0120 FAX 0595-21-0365

中外医薬生産株式会社



WHO への人的貢献を推進しよう

広告

株式会社 プロアシスト

代表取締役社長 阪田 敦視

〒540-0031 大阪市中央区北浜東 4-33
北浜ネクスビル 28F
TEL 06-6947-7230 FAX 06-6947-7261

新居合同税理士事務所

代表税理士 新居 誠一郎

〒546-0002 大阪市東住吉区杭全 1-15-18
TEL 06-6714-8222 FAX 06-6714-8090

ポリグルソーシャルビジネス 株式会社

代表取締役 小田 節子

〒540-0026 大阪市中央区内本町 2-1-19
TEL 06-6947-8777 FAX 06-6947-2888



岩本法律事務所

弁護士 岩本 洋子
弁護士 藤田 温香

〒541-0041 大阪市中央区北浜 2-1-19-901
サンメゾン北浜ラヴィッサ 901
TEL 06-6209-8103 FAX 06-6209-8106

広告に関する一切の責任は広告主に帰属し、また、当協会が広告内容について推奨するものではありません。



日本型セルフケアで、健やかな社会を。



日本セルフケア推進協議会は、国民の健康を第一に考え、
産学官の垣根を超えた横断的な情報交換を行うことで、
来るべきAI時代の大変化に対応し、
国民の健康寿命延伸に寄与できるような様々な調査や
オープンな意見交換、それに基づく提言を行っていきます。



一般社団法人 日本セルフケア推進協議会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3丁目4番18号 昭和薬貿ビル5階
Tel:03-6271-8941 <https://jspa-nsc.com/> 日本セルフケア推進協議会 検索





BLUE
OCEAN
DOME

海と
話そう。

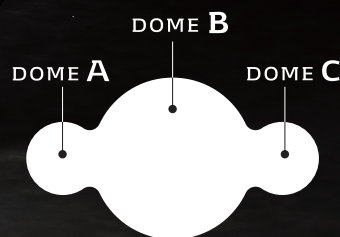
ブルーオーシャン・ドームの 見どころ

ドームA「循環」では、真っ白な空間と
「水」のスペクタクルが来場者を出迎えます。
水の大循環を体感し、その面白さや不思議さを
感性で受け止めていただきます。

ドームB「海洋」では、半球型の超巨大スクリーンによる
精緻な映像で、心に残る初めての映像体験を提供します。
大きな認識の転換を促す場となります。

ドームC「叡智」では、世界中の団体や企業の指揮者が
講演を行い、人類の叡智を世界に発信する場を提供します。
また、隔週でイベントも開催しています。

建築プロデューサー・坂茂氏による、美しい構造美にもご注目ください。
大阪・関西万博「ブルーオーシャン・ドーム」でお待ちしております。



BLUE OCEAN DOME



EXPO 2025
BLUE OCEAN DOME
▼ウェブサイトはこちら▼

SARAYAは、大阪・関西万博の
BLUE OCEAN DOMEの
パビリオンパートナーです。

SARAYAは、ZERI JAPANが出展する万博のブルーオーシャン・ドームで海への理解を深め、「プラスチック海洋汚染防止」「海業の持続的発展」「海の気候変動の理解促進」を世界に発信し、ネットワークの拠点形成を目指す取り組みを支援します。



<https://zeri.jp/expo2025/>



OSAKA-KANSAI
EXPO
2025

SARAYA

PAVILION PARTNER

大阪・関西万博
公式キャラクター
ミャクミャク



公益社団法人
日本WHO協会
Friends of WHO Japan

〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8 大阪商工会議所ビル5F
TEL。06-6944-1110 FAX。06-6944-1136
URL。https://www.japan-who.or.jp/